

## 医療機関の 上手なかかり方



保健管理センター  
准教授  
工藤 欣邦 先生

医療機関にかかった際、自身の情報をきちんと伝えることができなかつた経験はありませんか？せっかく時間を割いて受診するのなら、納得のいく診療を受けたいものです。医療機関を受診する際、気をつけておきたいことをあげてみました。

### + 自分でできることはやっておく

受診前に自宅でできることがあります。例えば風邪をひいて病院にかかる場合、発熱していたかどうかは大切な情報になります。単に「熱っぽかった」ではなく、体温計で「何℃あったか」言えるようにしておきましょう。

### + 症状を明確に言えるようにしておく

いつからどのような症状が出現し、どのような経過をとったか医師に明確に言えるようにしておきましょう。また、既往歴(過去にかかった大きな病気や外傷など)についてもまとめておきましょう。

### + 薬の情報を持参する

薬で副作用の経験がある人は、再び同じ薬を使用した場合、前回よりひどい副作用が出現することがあるため、薬剤名を記録しておきましょう。最初に受診した病院の薬で治らず、別の病院を受診するケースがありますが、どのような薬が効いていないのかという情報は診療上重要となります。薬の情報に関しては、薬局でお薬手帳を作ってもらい、処方された薬剤名を記入してもらおうと確実です。

### + 診断名を聞いておく

病気には診断名があります。もちろん初診時に診断が見つからないことも多いですが、医師より最終的な診断名を聞いておくことは後々の役に立ちます。

### + 紹介状を書いてもらう

最初にかかった病院で診断がつかず、他の医療機関を受診する場合は、紹介状を書いてもらうと診療がスムーズにいきます。大病院を受診する際は、紹介状がないと初診時に「特定療養費」が加算されることがあります。

### + 処方薬に関する希望を伝える

医師の指定がない限り、処方してもらう薬を「先発医薬品」にするか、「後発医薬品(ジェネリック医薬品)」にするかを患者自身で決めることができます。後発医薬品は安価なため、医療費を軽減することができます。希望をはっきりと伝えましょう。

